

記録メディアのあゆみ

データテープ

1960	1970	1980	1990	2000	2003
1953年 1/2インチオープンリールテープ					
1953年、IBMが開発。線記録密度は100BPI。その後急速に高密度化。 1962年に800BPI、1966年に1600BPI、1973年には6250BPIが登場し、現在に至る。					
1970年 コンパクトデータカセット					
オーディオ用コンパクトカセットのハーフを使用。容量60MB、160MB、600MBが使用された。					
1972年 QIC(1/4インチカートリッジ)テープ					
1972年に3 Mが商品化。主に8”、5.25”ハードディスク装置のバックアップ用。 1984年、DC2000/40MB。1988年、DC2120/120MB。(ミニカートリッジ) 1986年、DC6150/150MB。1990年、DC6525/525MB。 1996年、MLR-1/13GB。(現在SLR-32) 1997年、MLR-3/25GB。(現在SLR-50) 1999年、SLR-100/50GB。					
1984年 1/2インチカートリッジテープ					
1984年、3480型、容量200MBをIBMが商品化。メインフレーム用。 1991年、3490E型/800MB。 1995年、3590型/10GB。 1999年、3590E型/20GB。					
1985年 DLT(1/2インチカートリッジ)テープ					
1985年、DECが開発。CompacTape I /94MB。 1987年、CompacTape II /294MB。 1989年、CompacTape III /2.6GB。91年/6 GB。93年/10GB。 1994年、QuantumがDLTtape IIIと改称。 1995年、DLTtape IV /20GB。 1995年、DLTtape III XT /15GB。 1996年、DLTtape IV /35GB with DLT7000 drive。 1999年、DLTtape IV /40GB with DLT8000 drive。 2000年、Super DLTtape I /110GB with SDLT220 drive。 2002年、Super DLTtape I /160GB with SDLT320 drive。					
1987年 8 mmデータカートリッジ					
1987年、Exabyteが商品化。2.5GB。 1990年、5 GB/dual azimus。1993年、7 GB。 1996年、20GB/Mammoth1/MEテープ。 1996年、25GB/AIT。(ソニーが商品化) 1999年、50GB/AIT-2。 1999年、60GB/Mammoth 2。 1999年、33GB/VXA-1。(Ecrixが商品化) 2001年、100GB/AIT-3。					
1989年 4 mmデータカートリッジ					
1989年、1.3GB。1991年に国際規格統一。 1991年、2 GB/薄手9 μm厚テープ。 1993年、4 GB/DDS-2。 1996年、12GB/DDS-3。 1999年、20GB/DDS-4。 2003年、36GB/DAT72。					
1992年 1/2インチカートリッジ(ヘリカル走査記録)					
1992年、RSP/21GB。(S-VHSタイプ) 1995年、SD-3/50GB。(D-3タイプ) 1995年、DTF-1/42GB。(デジタルベータカムタイプ) 2000年、DTF-2/200GB。 2003年、SAIT/500GB。					
1995年 Travan					
8 mm幅サーベンタインQICタイプ。 1995年、TR-1/400MB。 1996年、TR-2/800MB。 1997年、TR-3/1600MB。 1997年、TR-4/4GB。(NS 8) 1998年、NS20/10GB。					
2000年 LTO(1/2インチカートリッジ)テープ					
2000年、LTO Ultrium1/100GB。 IBM、HP、Seagateが商品化。 2002年、LTO Ultrium2/200GB。(IBM、HP)					

DATA TAPE